

ラジオママネット ～ママトーク～

第 14 回放送の概要（2018 年 6 月 23 日）

本日のテーマ：「性教育」

メンバーとゲストを紹介します。

まきちゃん：41 歳、中 1 女子、小 5 男子、小 2 女子。シングルマザーです。地域活動として小学 1 年生からガールスカウトの活動がよかったので娘にも活動してもらっている。その繋がりから FMYY に呼んでもらい、今は番組をしている。ガールスカウトは初めは自分たちの団体のことをしていたが、シンパシーを感じる団体とつながりができた。

あっちゃん：まきちゃん繋がりです。FMYY にきた。50 歳代、20 歳代の娘 2 人。地元で算数教室「はじめてのおけいこ」の指導員。

黒野利佐子さん：神戸常盤大学及び短期大学の保健科学部看護学科准教授

本日のテーマ「性教育」の発端は、中 1 の娘が 5 年生の時の学年懇談会で同級生のママ友が、学校の性教育ではどの程度踏み込んだ話をしているのか、例えば LGBT に触れているかという質問に対し、学校ではふれていませんとの返事。ありきたりの昔ながらの王道の性教育（男子、女子の体の成長を男女別に教えている）をしている。5 年生にもなると体と心に違和感を感じる子供もいるので、体の性別で性教育を受けざるをえない子供のケアについて、なんら触れていない現状に疑問を持った。TV を見ればおねえと呼ばれる人が出演しており、そのような違和感を持つこどもは誰に相談すればいいのかと思った。

大学にもちらほら入学してきており、入学前にトイレをどうする、カミングアウトするのかしないのか、といった話があった。書類で男、女に○をつけるが、まきちゃんは真ん中に○をつけたいと思ったことがある。親にも言えなかったということをよく聞く。新聞で読んだことだが、体がどんどん変わってくる第 2 次性徴の時期、上がお兄ちゃん、下に弟がいる子供の場合、兄の体の変化を見ているので自分も 6 年生くらいから変わってきたことにすごく違和感を感じ、嫌になったという記事があった。親がお兄ちゃんと同じ服を買ってきた時のその子の気持ちを思ってしまう。その子は親に言うと悲しむからと言って黙っているのではと思う。そこで学校教育で、ほとんどの子は男の子、女の子に当てはまるが、体の成長に違和感を感じている子どももいるので、その場合は例えば保健の先生に言ってねと言ったことができないのかなと思う。

看護師の国家試験の中には、昨年からは LGBT のことは入っている。学校の保健師さんになるには国家試験の看護師免許と保健師免許の 2 つが必須になっている。

今の小学生は 3 年生、4 年生から自分のスマホを持っている。放課後に公園で遊ぶ時もスマホを持ち、

youtube を一緒に見て、ダンスをして遊んでいる。スマホがセキュリティの視聴制限をしていますが、気持ち悪い性描写の動画、そこに誘導するアニメの一コマなどを常時見たりしている。自分で検索して見れるので、小1の男の子が宇宙人の死体、犬の・・・とかを見ているのを、スマホを持っていない生徒が話していた。

今は看護の技術を動画で見れる。導尿、浣腸などのサイトにつながる。見ようと思わなくても見ている画面の横に関連動画で出ている。興味本位で見てしまうので、今の時代そのリスクは必ずある。小中生が初めて見た時、最初の性に対するイメージが形成される。また、そういうことがあることを教えるのも難しい。あっちゃんの娘さんが10年前の中学生の時に、スマホの普及は少なく、男の子のお母さんが子どもの部屋に入るとエッチな本があったことを言うと、父親は見たことを言っただけでいい、それは普通の成長と言われた。今は小学生が見てしまう。黒野さんの時代にちょっとエロっつい少女漫画があった。コンビニには過激な巨乳の雑誌が普通に置いてある。ドキドキするのはいいのかもしれないが、なんという変なものを見てしまったという後味の悪いものがある。

近日開催予定の「生と性のワークショップ」では専門的知識がある講師の性教育として、知人の助産師さんに話してもらおう。1時間は赤ちゃんはこのように生まれることを紙芝居や人形劇を使い、年齢幅は広く対応出来る方で、話のあとはお茶をしながらの懇談会。今の中学生はラインのタイムラインがすごい。ガールスカウトのリーダーをしているので中学生とラインでつながっており、中学生の友達の今まで流れてこなかったライン情報が流れてくる。男性器に似たような蒲鉾が売られていたとかが流れてきた。和歌山の子宝神社には女性器と男性器がペアで売られている。民間の宗教に基づくものは健全な気がする。からっと笑って話せる感じと、じめっとする感じは何が違うのか。悪いことをしているように思うのはなぜなのか。性をもっと明るく話せないのか。性の話をするといきなりお産か。それもどうかと思う。

ママ友は弁護士事務所で働いており、性被害の中学生、若くして妊娠してしまっただけというトラブルの子供がいる。「私は13歳」という13歳で子供を産んだ体験記が以前出版された。いきなり講義で話を聞くより実話を始めに読むのがいいと思う。エッチしたらお産だけではなく、スキンシップ、いたわりの気持ちなどが大きいので、ジメジメ語られると、性教育で後ろめたさを植え付けてしまうのではないかな。避妊などをきっちり教えることが大事だが、そのような教育をしている学校に対し、やるべきでないという横やりがはいたとの報道が最近あった。(注：区立中学の性教育の内容を都教育委員会が不適切として指導)

人が生きるといのは、生まれ生きて生をつなぐこと。そこを教えず道徳は教えるのはなんやと思う。避妊だけでなく性病の感染を防ぐために教育をするが、汚いものを見るところもあり教えるのは難しい。

(お知らせ)

放課後のくつろぎ交流スペース「中高生インタレストプロジェクト」として、生と性のワークショップが行われます。7月1日(日)13時30分~15時30分、市営松原第2住宅集会所で、参加費は

300 円。参加希望者は **CACKOBE** の HP から申し込んでください。気持ち悪い動画を見ちゃったどうすればいいのか、私って本当は男かもとか、私だけ遅れているのみたいなちょっと心配を持っている子どもたちそして大人の方も是非ご参加ください。インターネットや噂の情報に振り回されず、自分で判断できるように正しい知識と一緒に学びましょう。助産師さんの 60 分のお話の後、お茶タイムをしながら意見交換やディスカッション、最後に全体で振り返りをします。おうちの方も子どもと生や性に向き合えるようにできるだけ一緒にご参加ください。

ワークショップは大人側もどうやって向き合っていくかを考えるため 1 度やってみようということになった。女子だけでやるのがいいのか、男女混じる方がいいのか。最近教育現場に政治的意図をもって介入してくる風潮が見られ（前文科省事務次官が行った講演会への介入）、性教育についてもそのように感じられる。美しい国を取り戻すと言っている人が嘘をつき道德教育を進めるのはいかがなものか。

あっちゃんの知人の娘さんが高校入学祝に看護師の母親がコンドームをあげた。使い方は家族が教えた方がいい。中学の養護教諭をしている黒野さんの友人は、早ければ小学生からと言っている。中学生はかなり進んでいる。

以上